

「早寝・早起き・朝ご飯運動による体力の向上と自主・自立の精神の醸成」について

知・徳・体の調和のとれた子どもの成長を支援するため、学校・家庭と連携しながら、「早寝・早起き・朝ご飯運動」を進めてまいります。児童・生徒の保護者に理解と協力を得ながら、朝食をしつかり食べさせて規則正しい生活習慣を身につけさせ、更には早寝・早起きを推進することで、気力・体力の向上によって、学習意欲も湧き、自主的で自立の精神の醸成が図られるものと確信いたしております。また、食育は、児童・生徒が生涯にわたって健全な心と豊かな人格形成に大きな影響を及ぼすことから、食に関する正しい知識と望ましい食生活習慣を身につけさせる食育の推進を図ってまいります。

「学力・道徳向上宣言」について

学校と保護者との協力関係を密にしなが、特色ある教育活動を展開し、夢を持った志の高い子どもの育成を図り、学力の向上・定着に努めてまいります。また、思いやりのある心

豊かな児童・生徒の育成と地域への愛着、近隣や友達との人間関係の確立を助長するため、道徳教育の指導に力を入れてまいります。

「小中一貫教育の推進」について

小学校と中学校の一貫教育を行うことで、学習に継続性と総合性をもたせ地域との連携が更に深まることを期待し、小学生の中学校への体験入学を実施しモデル校設置に向けた検討を進めてまいります。

「個性あふれるスポーツ・文化の振興」について

町民総参加による健康づくりを推進するため、本年度「町民体育祭」を実施し、異年齢間の交流を進めるとともに、郷土愛を育み情操豊かな青少年を育成するた



ねんりんピック、タグラグビー

め、「こども文化祭」や「郷土芸能発表会」等計画的に開催促進に努めてまいります。

「大胆改革さつま宣言」

三番目の柱「大胆改革さつま宣言」

ここ数年の地方自治体の財政指標は、国の三位一体改革や景気低迷の影響もあつて大変厳しい状況にあります。持続可能な財政基盤の確立や、夢と希望のもてるまちづくりを進めるためには、あらゆる無駄を省きながらコスト削減を行う一方、生み出された財源で、未来への投資も積極的に行うべきだと考えております。したがって、行財政改革を一層進め、財政の建て直しを行いながら、町民生活に必要な施策等については、積極的な財政配分をするなどメリハリのある財政運営に努めてまいります。

行財政改革は、財政の健全化や仕事の効率性を高め、町民の皆様には質の高いサービスを提供するための手段でありますので、トップの強いリーダーシップのもとに、今後も引き続き取り組んでまいります。

「町長給料の20パーセントカット」について

厳しい行財政の改革を進めるために、トップ自らが給料の削減を行い、改革の姿勢を示します。町長、副町長、教育長の給料削減に伴う条例改正案につきましては、本定例会に提案いたしておりますのでよろしくご審議くださるようお願いいたします。

「副町長2人から1人制」について

合併後のさつま町は、町民の一体感の醸成、行財政改革、合併後の諸事務事業などの調整等により、トップの補佐的役割から総務担当、経済担当の2人による副町長制がとられてまいりました。この成果は十分にあったと評価しておりますが、本町行政規模や政策決定のスピード化を図るため、副町長1人体制にしたいと考えているところであります。この件に関しましても、本定例会で条例改正の提案をいたしているところでございますので、ご理解をいただきたいと思います。

「町長専用公用車（黒塗り）の廃止」について

現在まで使用しております町長専用公用車は、経

費削減の観点から廃止し、既存の公用車を使用し、職員との共用化を図ってまいります。



遊具で遊ぶ太陽保育園児

「行政サービス日本一運動」について

役場は、さつま町最大のサービス産業であります。提供されるサービスは、真に町民のためのものでなければなりません。6月から職員による午前と午後の交代制により、本庁舎一階の玄関口に「総合案内係」を置き、親切・丁寧な心がけサービスを開始したところであります。目標は大きく「行政サービス日本一」をめざしてまいります。

また、町民ニーズの把握を行うとともに各種事務事業の点検・見直しも行い、緊急性・重要性など優先度を検討しながら取り組んでまいります。

「職員の意識改革と能力開発」について

行政サービス日本一を実現するためには、職員の意識改革が必要不可欠となっています。行政サービスの目標を定め具体化するために、徹底した研修と積極的な人材の登用により次代を担う職員を育て、やる気を喚起してまいります。

「時代を見据えた組織改革」について

私が選挙で掲げたマニフェストの推進と進化管理を行うため「政策推進係（仮称）」を設け、進めようとする重要課題や事務事業については、適時的確に「戦略プロジェクトチーム」を編成しながら取り組んでまいります。

「行政情報の公開」について

可能な限り行政情報の公開を行い、町の諸活動を町民に説明する責務を果たしながら、町民の町政に対する理解と信頼を確保し、町民参加による公正で開かれた町政の推進に努めてまいります。

「安心安全さつま宣言」

四番目の柱「安心安全さつま宣言」

地球温暖化や風水害等災害発生頻度が高まるとともに、地震などの災害が心配されており、最近では、交通事故が多発傾向にあると同時に犯罪なども増加の傾向にあります。このような災害を未然に防いだり被害の程度を軽減したり、危機管理のあり方を明確にしなが町民が安全に安心して暮らせるさつま町を実現



防災避難訓練

「被災者の立場に立った河川激特事業の推進」について

平成18年7月の豪雨災害は、合併後のさつま町にとって大きな試練と被災者

や住民に多大な被害をもたらしました。このような災害が発生しないよう、激特事業の早期完了と鶴田ダム再開発について、被災地区住民のご意見を十分に聴きながら国や県に要望してまいります。

「内水対策の推進」について

内水対策は、激特事業完了後の防災上の安全性については極めて重要で最大の課題であります。これらの問題を解消し、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、内水対策の方向性と施設の整備が必要不可欠であります。課題解決のために、国・県へも働きかけると同時に、町として何が出来るか関係機関と連携しながら施策の検討を進めてまいります。なお、当面緊急的措置として今回の補正予算におきまして、排水ポンプを購入し内水対策の一方策として思っております。また、国においては、本町に「排水ポンプ車」を一台配備していただくことの回答をいただきました。

「危機管理監の設置とさつま町安全安心会議の充実」について

さつま町の危機管理は、風水害、地震などの自然災

害だけに限らず、交通事故や犯罪、新型インフルエンザなどの突然現れる事象や町民を危険に及ぼす事態を未然に防止するとともに、発生した事態を最小限度に収拾するなどの必要性から「危機管理監（仮称）」を設置し、安全・安心なまちを創造したいと考えております。

また、現在設置している「さつま町安全安心会議」の充実を図りながら、より機能的な防災システムの構築を図ってまいります。

「学校施設の耐震診断と耐震化」について

地震により全国では多くの尊い命が奪われており、このうち9割が住宅・建築物の倒壊等によるものであります。倒壊した建物の多くは、昭和56年以前に建築された現行の新耐震基準に適合していない建築物であります。

このようなことから、法律や国・県の指針をもとに策定した「さつま町建築物耐震改修促進計画」をもとに、耐震改修に関する実施目標を定めながら、既存建物の耐震性向上に向けた改修の促進に努めてまいります。

「健康・福祉」について

高齢化が進むなかで、本

町の高齢化率は35%となり、2・84人に1人が高齢者という超高齢社会に直面しています。高齢者の豊かな経験や知識を生かせる「シルバー人材センター」等における雇用・就業の場の確保、地域社会のなかで心豊かに自立する高齢者をめざす「高齢者クラブ（老人クラブ）」活動への参加促進、そして、高齢者の引きこもり防止やふれあいを目的とした「高齢者ふれあいいきいきサロン」への取り組みなどを進めてまいります。幸せな人生をまち全体に広げるため、自分の健康は自分で、をキャッチフレーズに健康体操など「まちぐるみの健康増進運動」とともに、成人病等の早期発見・早期治療を促進するため、健康健診・人間ドック等の充実を図ってまいります。



鶴田区ウォーキング大会